

日本の科学技術を変える 研究開発マネジメント人材

日本の研究力強化に向けては、研究者とともに、研究を常にイノベーションの視点から見つめるパートナーの存在が必要です。

科学技術振興機構（JST）は2022年度より、そのような高度な専門人材「研究開発マネジメント人材」のための人事制度を新たに設けました。JSTにおいて、イノベーション政策と研究現場を戦略的につなぎ、成果最大化に貢献するスキルやノウハウを発展させようという意欲あふれる人材を募集しています。

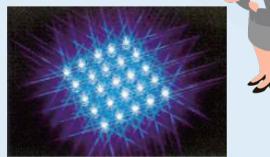
将来的に、大学、研究機関などとともに、日本全体の研究開発において活躍できる人材へと発展していくことを目指しています。



JSTの研究開発マネジメントとは

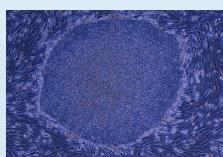
事例1 「青色LED」

- JST職員が早期に企業連携を説得
→日本での実用化に成功



事例2 「iPS細胞」

- 研究をマネジメントできる職員を長期派遣
→センター立ち上げとAll JAPANの体制構築を支援



©京都大学教授 山中伸弥

本職種の特徴

ファンディングプログラムの運営・マネジメントに特化

- JSTのファンディングプログラムの運営・マネジメントに特化した職種
- 政策に基づき戦略的にイノベーション創出に向かうプロデューサー的視点でマネジメント
- 研究動向を把握しながら、第一線の研究者と力を合わせて世の中を変えるイノベーション創出に貢献！

独自の待遇・研修

- 年齢に依らず、本業務に関連する経験実績を考慮して決定します。
- 年収600万円以上
※ただし一部手当については、勤務月数に応じた調整あり
- 定年制登用後は毎年の人事評価を待遇に反映（昇給、昇任制度）
- 本職制専用の研修や相互鍛錬機会あり

定年制登用制度

- 定年制への登用機会あり（選考あり）
- 国の政策が目指す研究戦略の実行に長期視点で関わることで、スキルや知見を蓄え、より高度な活躍が可能に
- 大学、研究機関などとともに、日本全体の研究開発現場で活躍できる人材へ

定年制登用後は

長期的視点で高度な活躍が可能に

採用後
定年制登用の
チャンスあり

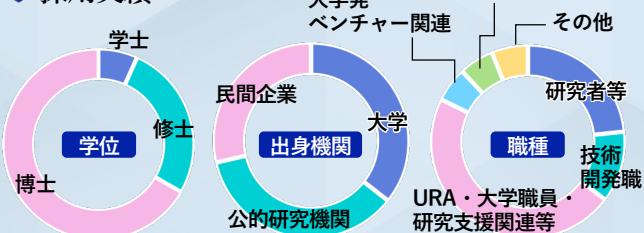


研究開発マネジメント人材に係る制度について

高度な専門人材（プロデューサー的人材）



採用実績



定年制登用者の声

技術開発職・科学コミュニケーション経験者 Aさん

自身の業務は研究総括の目指すサイエンスの実現と政策意図の実現を両方満たす手段を考え、なんでもやること、すなわちプロデューサー業務と認識しています。

最前線にいる研究者の良き相談役として、多岐に渡るサポートを主体的に担えることが何よりのやりがいです。

研究員・大学教員経験者 Bさん

研究者として培った思考力やコミュニケーション力が業務の中で生きていると感じています。研究者時代は、自身の研究を深める仕事でしたが、いまはPOや関連省庁、研究者と連携して「面」で科学技術に貢献できる手応えを感じています。

技術開発職・科学コミュニケーション・研究員経験者 Cさん

研究員としての経験から、研究者との関係構築や、研究者が研究に注力できる環境づくりができると感じます。

担当するプロジェクトの成果が対外的にも評価された際には、自分事のようにうれしく感じます。

研究がさらに飛躍・発展できるような産業や社会とのコラボレーションを積極的に取り組みたいと考えています。

問い合わせ先

